アマチュアオーケストラ

新響

第81回演奏会

新響サマーコンサート





1978. 8. 4 P.M. 7:00

東京郵便貯金会館ホール

主催 新交響楽団

PROGRAM

Ⅰ **ドボルザーク**　　**交響曲第９番 ホ短調，Op. 95「新世界より」**
Antonin Dvořák

第１楽章　Adagio; allegro molto
第２楽章　Largo
第３楽章　Scherzo
第４楽章　Allegro con fuoco

Ⅱ **ロッシーニ**　　**歌劇「どろぼうかささぎ」序曲**
Gioacchino A. Rossini

Ⅲ **レオンカバルロ**　　**歌劇「道化師」より間奏曲**
Ruggero Leoncavallo

Ⅳ **ヴェルディ**　　**歌劇「椿　姫」より前奏曲**
Giuseppe Verdi

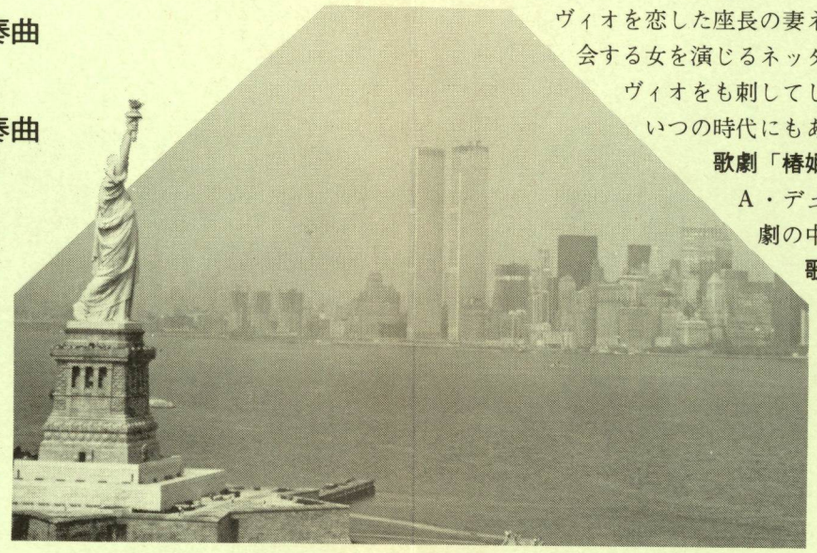
Ⅴ **ヴェルディ**　　**歌劇「運命の力」序曲**
Giuseppe Verdi

客演指揮者紹介　　**―尾高忠明―**

1947年11月鎌倉に生まれる。
4才の時から、ヴァイオリンを斎藤孝磨、鷲見三郎の両師に師事する。
1963年、桐朋学園高等学校音楽科に入学し、指揮を斎藤秀雄氏、ピアノを森安芳樹、矢代秋雄、三善晃の各氏に、作曲法、音楽理論を未吉保雄、宍戸睦郎、冬木透の各氏に、ホルンを千葉馨氏にそれぞれ師事する。
1966年、同大学に入学。
1968年、20才の若さで、ＮＨＫ交響楽団指揮研究員として入団、Ｊ・カイルベルト、Ｗ・サバリッシュ、Ｌ・Ｖ・マタチッチ、Ｊ・フルネ、Ｏ・スイトナー等の下で研さんを重ねる。



1970年、同大学を卒業し、指揮科、オーケストラの助手になる。同年７月第２回民音指揮者コンクールで第２位。同年９月～11月、桐朋学園弦楽合奏団と共にヨーロッパ各地を巡演し、絶賛を博す。
1971年、ＮＨＫ招聘のイタリアオペラの副指揮者をつとめる。
1972年～1973年、Ｎ響第２回の海外公演に副指揮者として同行、この間1972年９月には、オーストリア給費留学生として、ウィーン国立音楽アカデミー指揮科に入学。
1974年９月　東京フィルハーモニー交響楽団の常任指揮者に就任。



曲 目 解 説

交響曲第９番“新世界より”Op. 95 （初演1893年　ニューヨーク）

ドボルザーク（1841～1904）は、ナショナル音楽院を創設したジャネット・サーバー夫人の招きにより、1892年より1895年までの４年間、同音楽院の院長として、アメリカに在住した。彼は故郷ボヘミアに強い愛着をもち、その為ウイーン音楽院の作曲教授にというブラームスの誘いを、一度ならず断わったのだが、それにも拘らずサーバー夫人の招きに応じたのは、彼女の示した破格の条件の良さによると言われている。

アメリカ人の熱狂的な歓迎を受けて、1892年にニューヨークに到着した彼であったが、その後４年間の在職中、結局アメリカという国に馴染むことができず、アイオア州スピルヴィルにあるチェコ人の村を度々訪れたりした。ドボルザークがアメリカ在住中に書いた作品には、弦楽四重奏曲ヘ長調「アメリカ」、独唱曲「聖書の歌」、ピアノの為の「ユモレスク」、チェロ協奏曲ロ短調などがあり、この交響曲は最も初めに作られたものである。この曲には、黒人霊歌や、アメリカ・インディアンの民謡の旋律などが巧妙に使われてはいるが、決して標題音楽のようにその新大陸の風物を克明に描写した音楽ではなく、自分流に充分咀嚼した後、その旋律の持つ精神を生かして、国民的なもの―ボヘミアの精神―を表わしたものである。

歌劇「どろぼうかささぎ」序曲　（初演1817年　ミラノ）

ロッシーニ（1792―1868）は、３７才までの１９年間に３８の歌劇を作曲したが、その後の３９年間歌劇は１曲も作らなかった。ロッシーニの序曲が、オーケストラの演奏会で多く演奏されるのは、いわゆる“ロッシーニ・クレッシェンド”に負うところが多く、単純でありながら、きわめて効果的に使われている。

梗概　「保管しなくてはならない銀器を失くしたアネットは、盗んだのではないかと嫌疑をかけられ、投獄される。アネットの友人が彼女の所持金を家に届ける途中、かささぎが飛んできて銀貨を咥え去る。友人が、かささぎをその巣まで追ってみると、そこには銀貨の他、失くなった筈の銀器もあり、アネットの嫌疑は晴れる。」

歌劇「道化師」より間奏曲　（初演　1892年　ミラノ）

レオンカバルロ（1858―1919）は、１９世紀後半のイタリア文壇に登場した所謂現実主義の影響のもとに、一般市井人の人情生活に題材を求めたオペラを作曲した。この間奏曲は、第一幕と第二幕の間で演奏される。

梗概　「イタリア南部のカラブリオの小村を背景に、旅芝居一座の座長カニオ、村の若者シルヴィオ、シルヴィオを恋した座長の妻ネッダの三角関係からの殺人。道化師役のカニオは、劇中劇の舞台で恋人と密会する女を演じるネッダを見て、現実と劇との見境をなくして、愛妻を殺し、驚いて駈けつけたシルヴィオをも刺してしまう。正気にもどったカニオの『喜劇は終った』という台詞で、幕となる。」
いつの時代にもありがちな事件を、生々しく扱った現実派オペラの名作である。

歌劇「椿姫」より第一幕への前奏曲　（初演　1853年　ベニス）

A・デュマの戯曲「椿姫」に取材したこの曲はヴェルディ（1813―1901）の数ある歌劇の中でその感傷的な物語と親しまれ易い音楽が相俟って、広く愛好されている。

歌劇「運命の力」序曲　（初演　1862年　ペテルスブルグ）

ヴェルディの歌劇の中で、多くコンサートで取り挙げられる曲。四幕の悲劇で、ヴェルディの中期から後期に至る過渡的な作品といえる。

梗概「アルヴァーロは、恋人レオノーラの父親を誤まって傷つけてしまう。復讐を決意して旅に出たレオノーラの兄ドン・カルロは、アルヴァーロを捜し出し決闘するが、無残にも刺され、最後の力で彼が刺したのは、父の仇のアルヴァーロではなく、偶然通りかかった妹のレオノーラであった。」（伊藤）

次 回 予 告

第８２回演奏会―リヒャルト・シュトラウスの夕べ―
日時：1978年12月１日（金）ＰＭ７：00
場所：日比谷公会堂
指揮：河地良智
曲目：交響詩「英雄の生涯」　他

お 知 ら せ

一昨年の20周年記念及び、前回の小倉朗交響作品展のプログラムは、資料として保存する価値のあるものと、多くの方々よりお誉めの言葉を頂戴しております。つきましては、今回２冊セットで通信販売をすることにいたしました。送料込で￥1,000です。現金書留で下記に御送り下さい。
〒276　八千代市八千代台南　１―21―３　落合　宏

編 集 後 記

暑い夏の真盛り、赤坂の練習場はそれはもう大変です。各所で携帯用蚊取線香の煙がくゆり、ティンパニにつられてゴキブリが跳ねまわり、汗は楽器の上にもポタポタ…。トレーニングをして下さった河地先生、前原先生、本当にありがとうございました。
表紙のドボルザーク先生。「そうでなくてもマンガ的な写真だったから、絵にするのがとてもむずかしかった」と。玉起女史でした。